

大項目	2	持続可能な社会の実現に向けた地球的課題と国際協力			
中項目	2-3	持続可能な開発と国際協力			
小項目	2-3-1	持続可能な地球・世界と SDGs, Future Earth			
細項目	2-3-1-8 SDGs14	海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する			
作成者名	山野博哉	作成・修正	2021/2022/2023/2024 年	Ver.	2.1
キーワード 5~10 個程度	排他的経済水域、漁業、汚染、保護区、海洋プラスチック、海洋酸性化 SDGs14				

## 発問の意図と説明

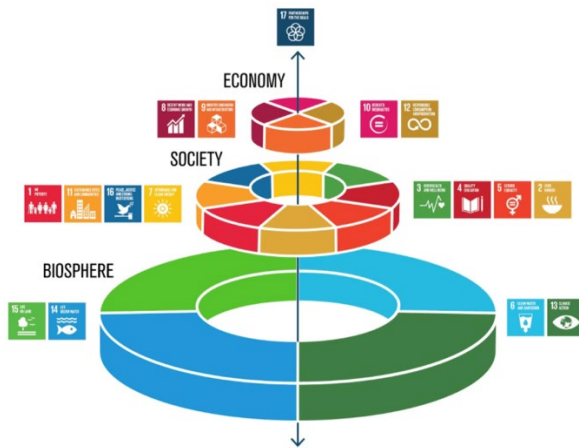
### 1. SDGs 14 はなぜ重要なのでしょうか？

SDGs14 は、「海の豊かさを守ろう」をキーワードに、持続可能な開発のために、海洋や海洋資源を保全し持続可能な形で利用することが目標となっています。[図1 \(参考 URL1\)](#) は、SDGs の 17 の目標を整理したウェディングケーキモデルと呼ばれるものです。ストックホルム・レジリエンス・センターの所長であるヨハン・ロックストローム氏によって作られました。この SDGs ウェディングケーキモデルでは、SDGs17 (パートナーシップで目標を達成しよう) をケーキの頂点として、その下に重なる「経済 (Economy)」、「社会 (Society)」、「生物圏 (Biosphere)」の 3 つの階層に残りの目標を分類しています。「生物圏」が SDGs ウェディングケーキモデルの土台であるということから、私たちが地球で暮らすためには自然環境の存在が必要不可欠であるということが視覚的にわかります。SDGs14 (海の豊かさを守ろう) は、SDGs15 (陸の豊かさを守ろう) とともに「生物圏」に含まれる目標です。

SDGs14 がなぜ重要かは、私たちが魚などの海産物を日々食べて暮らしていることから明らかです。しかし、海産資源は劣化の一途をたどっており、まだ十分に利用できる資源はわずか 6.2% であることが示されています ([参考 URL2](#))。ウナギやマグロが減っているということを知った方も多いと思います。また、水産物だけでなく、海の生物多様性も失われつつあります。その代表的な例がサンゴ礁 ([細目 2-2-1-9](#)) です。サンゴ礁は地球の面積の 0.1% を占めるに過ぎませんが、そこには約 9 万種の生物が生息しているのです。しかし、サンゴ礁は気候変動や汚染などの影響を受けて衰退を続けています。こうしたことが、SDGs14 が設定された背景となっています。

日本は海洋国家と言われています。領海を含めた排他的経済水域 (EEZ) の面積は約 447 万平方キロで国土面積 38 万平方キロの約 12 倍の広さを持っており、この広さは世界第 6 位です。また、日本近海は高い海洋生物多様性を持っています ([図2](#))。全世界の海洋生物分布情報を収集した「海洋生物のセンサス (CoML; Census of Marine Life)」([参考 URL3](#)) により、日本近海には全海洋生物種数約 25 万種の 13.5% が出現すると推定されました。これは、日本が南北に長く、さらに日本近海には日本海溝などの深海があり、地形、水深帯、水温、潮流、気候区分など環境が多様であるためと考えられています。こうしたことから、日本においては SDGs14 は特に重要な目標の 1 つと言えるでしょう。

図と表のページ



” the wedding cake” credit: Azote Images for Stockholm Resilience Centre, Stockholm University

図1. SDGs ウェディングケーキモデル。SDGs14 (左下) は「生物圏 (Biosphere)」の一つ。  
<https://www.stockholmresilience.org/research/research-news/2016-06-14-the-sdgs-wedding-cake.html>

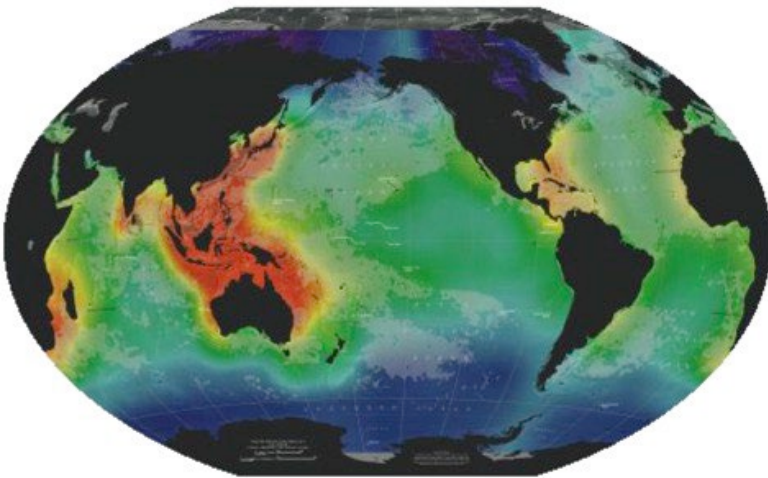


図2. 世界の海洋生物の多様性。赤いところほど多様性が高い (参考 URL3)。

<http://bd20.jp/cop2/wp-content/uploads/2013/11/2016.02.20-kinen-kokuritsukankyokenkyujo.pdf>

「学術分野における生物多様性の主流化の促進」 山野裕哉のスライド(pdf) (2016年2月20-21にじゅまる COP21) 18枚目スライド引用

## 2. SDGs14 を達成するためにどうすればよいでしょう？

SDGs14 は、[表1](#) に示すようにいくつかのターゲットから構成されています。

14.1 は汚染を防止するもので、最近注目を集めているのが海洋プラスチックの問題です ([参考 URL4](#))。プラスチックは私たちの生活のあらゆる場面で利用されているとても便利なものですが、多くが使い捨てされており、プラスチックごみが河川などから海へと流れ込んでいます。既に世界の海に存在しているといわれるプラスチックごみは合計で1億5,000万トンで、そこへ少なくとも年間800万トンが、新たに流入していると推定されています。また、一度流出したプラスチックごみは、例えば海岸での波や紫外線等の影響を受けるなどして、やがて小さなプラスチックの粒子となります。5mm以下になったプラスチックは、マイクロプラスチックと呼ばれており長い間自然界に残り続けます。こうした海洋プラスチックを誤飲したりして多くの海洋生物が影響を受けています。海洋プラスチックは広くはごみ問題で、3R、すなわちリデュース（出すごみの総量を減らすこと）、リユース（再利用すること）、リサイクル（再生産に回すこと）をしっかりと行うことが重要です。もちろん、プラスチックだけでなく、生活排水など、私たちの生活が汚染をもたらすことが他にもありますので、気をつける必要があるでしょう。

14.2 は海洋資源の保全や管理を行うもので、14.5 では保護区の設定が挙げられています。ここで掲げられた10%という数値は、生物多様性条約の愛知目標（細目2-3-1-4）からきています。陸域では保護区を17%にするという数値が掲げられており、これも生物多様性条約の愛知目標からきています。SDGsのターゲットは国際条約も考慮しながらつくられているのです。14.3 は海洋酸性化を抑えるものです。海洋酸性化は、二酸化炭素が海水に溶け込んで起こるもので、海洋酸性化によって貝やサンゴなどの石灰化する生きものが殻や骨をつくりにくくなります。二酸化炭素の排出が関係しているので、気候変動の問題の一つです。気候変動とそれともなう地球温暖化・海洋酸性化を抑えるためには、温室効果ガスの排出削減が必須です。また、森林は二酸化炭素を吸収するので、森林を保全することも重要で、ここではSDGs15（陸の豊かさを守ろう）が関係してきます。14.4 は乱獲をふせぐものです。海洋資源管理をしっかりと行うとともに、無法・無報告・無規制の漁業やダイナマイト漁など破壊的な漁業をやめることが必要です。

14.6 以下は、以上を行うための仕組み作りです。日本においては、持続可能な開発目標（SDGs）推進本部が「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」など各種取り組みの方針を策定しています ([参考 URL5](#))。陸の私たちの生活は汚染や気候変動を通じて海に大きな影響を与えています。また、私たちの生活が時には水産資源の乱獲をもたらす要因にもなります。SDGs14 とそこで掲げられているターゲットは、私たちが海の大切さを知り、日々の生活の中で海の豊かさを守ることの必要性を教えてください。

### 参考文献・資料

山野博哉（2016） 「学術分野における生物多様性の主流化の促進、 2016年2月20-21日」  
2じゅうまる cop2 講演スライド

<http://bd20.jp/cop2/wp-content/uploads/2013/11/2016.02.20-kinen-kokuritsukankyokenkyujo.pdf>

### 参考 URL サイト(2024年3月参照確認)

参考 URL1 SDGs の 17 の目標を整理したウェディングケーキモデル

<https://www.stockholmresilience.org/research/research-news/2016-06-14-the-sdgs-wedding-cake.html>

参考 URL2 EduTown（「今日的な教育課題への対応」「先生への新たなサポート」「地域社会の活性化に貢献できる人材の育成」をテーマとした教育総合サイト）の目標14のポイント

<https://sdgs.edutown.jp/info/goals/goals-14.html>

原典は <https://www.fao.org/3/cc0461en/online/cc0461en.html> 「世界の漁業と水産資源の現状 2022」パート1の水産資源の現状：図23「世界の海洋漁業資源の状態における世界的な傾向、1974～2019年」

<https://www.fao.org/3/cc0461en/online/sofia/2022/status-of-fishery-resources.html>

参考 URL3 「海洋生物のセンサス（CoML; Census of Marine Life）」

<https://www.jamstec.go.jp/jcoml/>

参考 URL4 WWF（World Wide Fund for Nature：世界自然保護基金）

<https://www.wwf.or.jp/activities/basicinfo/3776.html>

参考 URL5 日本の「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」JAPAN

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/index.html>

図と表のページ

表 1. SDGs14 のターゲット

14.1	2025 年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。
14.2	2020 年までに、海洋及び沿岸の生態系に関する重大な悪影響を回避するため、強靱性(レジリエンス)の強化などによる持続的な管理と保護を行い、健全で生産的な海洋を実現するため、海洋及び沿岸の生態系の回復のための取組を行う。
14.3	あらゆるレベルでの科学的協力の促進などを通じて、海洋酸性化の影響を最小限化し対処する。
14.4	水産資源を、実現可能な最短期間で少なくとも各資源の生物学的特性によって定められる最大持続生産量のレベルまで回復させるため、2020 年までに、漁獲を効果的に規制し、過剰漁業や違法・無報告・無規制(IUU)漁業及び破壊的な漁業慣行を終了し、科学的な管理計画を実施する。
14.5	2020 年までに、国内法及び国際法に則り、最大限入手可能な科学情報に基づいて、少なくとも沿岸域及び海域の 10 パーセントを保全する。
14.6	開発途上国及び後発開発途上国に対する適切かつ効果的な、特別かつ異なる待遇が、世界貿易機関(WTO)漁業補助金交渉の不可分の要素であるべきことを認識した上で、2020 年までに、過剰漁獲能力や過剰漁獲につながる漁業補助金を禁止し、違法・無報告・無規制(IUU)漁業につながる補助金を撤廃し、同様の新たな補助金の導入を抑制する**。  **現在進行中の世界貿易機関(WTO)交渉および WTO ドーハ開発アジェンダ、ならびに香港閣僚宣言のマンデートを考慮。
14.7	2030 年までに、漁業、水産養殖及び観光の持続可能な管理などを通じ、小島嶼開発途上国及び後発開発途上国の海洋資源の持続的な利用による経済的便益を増大させる。
14.a	海洋の健全性の改善と、開発途上国、特に小島嶼開発途上国および後発開発途上国の開発における海洋生物多様性の寄与向上のために、海洋技術の移転に関するユネスコ政府間海洋学委員会の基準・ガイドラインを勧奨しつつ、科学的知識の増進、研究能力の向上、及び海洋技術の移転を行う。
14.b	小規模・沿岸零細漁業者に対し、海洋資源及び市場へのアクセスを提供する。
14.c	「我々の求める未来」のパラ 158 において想起されるとおり、海洋及び海洋資源の保全及び持続可能な利用のための法的枠組みを規定する海洋法に関する国際連合条約(UNCLOS)に反映されている国際法を実施することにより、海洋及び海洋資源の保全及び持続可能な利用を強化する。

\*\* 現在進行中の世界貿易機関 (WTO) 交渉および WTO ドーハ開発アジェンダ、ならびに香港閣僚宣言のマンデートを考慮。

<https://www.unicef.or.jp/sdgs/target.html> を引用し表として作成